



顕彰状を受け取る宮崎さん

宮崎謙藏さん100歳おめでとう

宮崎謙藏さん（森田町）が3月2日、めでたく満100歳を迎えられました。宮崎さんは大正5年3月2日、旧森田村生まれ。戦後、満州から引き揚げた宮崎さんは、亡くなった妻のハルさんと稲作やりんご園を営みながら、子ども5人を育て、孫8人、ひ孫2人に恵まれました。健康維持に関心が高く、長男に農業経営を引き継いだ後も90歳近くまで山仕事で良く体を動かし、現在でも梅干しと蜂蜜は毎日欠かさず食べているそうです。この日は、入所している「えんじゅの里」で顕彰状授与式が行われ、お祝いに駆け付けた家族や施設の入所者が見守る中、市の境福祉部長より顕彰状と記念品が手渡され、たくさんの祝福を受けていました。

ドラえもんが一日駅長

JR木造駅

国民的アニメ「ドラえもん」が3月20日、遮光器土偶の巨大モニュメントがあるJR木造駅の一日駅長に就任しました。これは、公開中の「映画ドラえもん新・のび太の日本誕生」に登場するキャラ「ツチダマ」が、市内の亀ヶ岡遺跡から発掘された遮光器土偶にそっくりなことが縁となって行われたものです。ドラえもん駅長はツチダマと一緒に駅ホームで乗降客を送迎したほか、地元園児たちと「ウンタカダンス」の披露や握手会を実施するなど、たくさんの業務をこなした約500人の家族連れを楽しませていました。一緒にダンスした女の子は「ドラえもんと一緒に踊るととても楽しかった」と声を弾ませていました。



ホームで乗客を出迎えるドラえもん＆ツチダマ



新商品の味やデザインを吟味する市民モニター

市民モニターが新たな加工品を評価

農業6次産業化に取り組む生産者が開発した、農産加工品の試食評価会が2月21日、木造農村環境改善センターで行われました。今回、新開発や改良を重ねて出品されたのは、トマト味噌「からめでみへんが」（稲垣Vicの会）、牛蒡めん美人、めんつゆ（むらおこし拠点館フラット）、「つがる、つながるメロンロール」（お菓子の工藤）、ラズベリージャム、ラズベリーピューレ（株式会社尾野建設ラズベリー生産部）の6品。公募で選ばれた幅広い年代の市民モニター30人が、味やパッケージデザインなどを1品1品評価し、「結婚式の引き出物によさそう」、「おすすめの食べ方をラベル表示してほしい」などの意見を出し合っていました。

高齢者のうつ病について学ぶ 健康づくり講座

健康に対する意識向上を目的に3月6日、松の館で健康づくり講座が行われ、市民ら約100人が参加しました。

この日は、青い森病院（青森市）の平野敬之院長が「高齢者のこころとうつを知る」をテーマに講演。平野院長は高齢者のうつ病について、「身体疾患や知人との死別、退職といった喪失体験がきっかけになりやすい」、「不安や焦燥が強くなり、判断力や思考力が低下する。妄想も出やすくなる」と発症原因や症状の特徴を説明しました。周囲の対応としては「まずは休養させることが大事。こころのエネルギーをうまく補充できるように好きな事を見つけてあげることも重要」と話していました。



高齢者のうつ病について講演する平野院長

柏ミニバススポーツ少年団が県大会優勝

柏ミニバススポーツ少年団が2月20、21日の2日間、三沢市を主会場に行われた「第17回ヤマグチカップ青森県ミニバスケットボール教室新人交歓大会」で優勝しました。大会は、県内各地区を勝ち進んだ16チームが出場。決勝では同じ西北五地区の「五所川原」を59-23で下し、13年ぶり2回目の栄冠に輝きました。

3月17日、市役所に訪れた選手らは福島市長に喜びを報告。主将の藤本鍊君は「もっと練習を重ねて、他の大会でも東北大会や全国大会出場を目指したい」と意気込みを語り、福島市長は「監督やコーチの指導をしっかり聞いて、けがの無いよう頑張ってください」と激励しました。



優勝を報告した柏ミニバススポーツ少年団



今後の方向性などが話し合われた推進会議

高齢者が安心して暮らせる地域づくりを

「つがる市在宅医療介護連携推進会議」が3月17日、松の館で開催され、病院や介護、行政の関係者ら約30人が参加しました。これは、市内の高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる体制づくりを目的としたもので、将来的には、介護、医療、住まい、生活支援、認知症支援の充実を基本とした「つがる市地域包括ケアシステム」の構築を目指します。構成員は3グループに分かれ、これまでに4回の研究部会を開催。「在宅医療の認知度が低い」、「医療機関との情報共有が不十分」などの市における課題を洗い出し、その対応策について検討を重ねました。この日は、今後の具体的な取り組みの推進に向け、出席者が相互の役割を確かめ合いました。

定住自立圏で協定締結

西北五地区の2市4町が3月30日、五所川原圏域定住自立圏形成協定を締結しました。これは、人口定住に必要な生活機能などを強化するため、五所川原市を「中心市」として、周辺のつがる市、鰺ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町が相互に役割分担しながら連携して政策等を行うことを取り決めたものです。圏域内の医療、福祉、教育などの幅広い分野で充実を図るほか、地域公共交通の維持やインフラ整備などで圏域内ネットワークの強化を目指します。中心市の五所川原市では市町長会議やパブリックコメントなどでの意見を取りまとめ、今秋をめどに定住自立圏の将来像や具体的な取り組みを定めた「共生ビジョン」を策定する予定です。



協定を交わした6市町長



目録を手渡す天坂常務取締役（右）

建設会社が新入生に防犯ブザー寄贈

3月16日、株式会社伊藤鋳業（増田教正代表取締役社長）が市に防犯ブザー220台を寄贈しました。これは、同社の地域貢献活動の一環として行われたもので、ブザーは市内小学校の新入生全員（209人）に配付されます。

天坂順一常務取締役は「学校関係で何らかの貢献がしたかったので、教育委員会と相談しながら考えました。子どもたちが安全に安心して通学してほしい」と話し、福島市長に目録を手渡しました。福島市長は「大事に活用させていただきます」とお礼を述べ、葛西教育長は「最近是不審者への不安が高まっているので安心して登下校できます」と話していました。

🌸 車力幼稚園

- 昭和50年、車力村立幼稚園として開設
- 卒園児 1026人（41年間）
- 中畑雪子園長コメント

園歌にあるように「おててつないで遊ぼうよ・大きく丈夫な子になろう・寒さにまけない元気な子」の言葉を忘れず、こども園でも明るく健やかに成長することを願っています。



🌸 牛潟保育所

- 昭和56年、車力村立牛潟保育所として開設
- 卒園児 603人（35年間）
- 工藤淳子所長コメント

子どもたちのキラキラ輝く笑顔と元気いっぱいの姿が私たち職員をいつでも勇気づけてくれました。新しい所でも輝き、たくさんの人にかわいがってもらって、また大きくなってください。



思い出の園舎に お別れ

平成28年4月の車力地区認定こども園開設に伴い、車力幼稚園と牛潟、富范の2保育所が3月いっぱいまで長年の歴史に幕を閉じました。

車力幼稚園では2月26日に閉園式、牛潟、富范保育所では3月12日に閉所式を開催。特別功労者や農園提供者などに感謝状や花束を贈ったほか、スライドショーや園児たちの呼び掛けなどで思い出を振り返り、出席者は子どもたちの健やかな成長を支えてきた園舎との別れを惜しましました。

🌸 富范保育所

- 昭和42年、車力村立富范保育所として開設
- 卒園児 836人（49年間）
- 松橋徳子所長コメント

「健やかな子どもを育む」のゆるぎない目標のもとで49年の歴史を刻んだこの保育所は、たくさんの方々に見守られ、支えられてきました。新たなこども園のご発展を祈念申し上げます。



卒業証書を受け取る卒業生

仲間との再会誓い学びや巣立つ

3月11日、市内5つの中学校で卒業式が行われ、296人の卒業生が思い出の詰まった学びやを巣立ちました。

木造中学校では、保護者や地域の関係者が見守る中、古川郁生校長が128人の卒業生一人一人に卒業証書を手渡し、「新たな道のりを自分らしく、しっかりと歩んでくれると期待しています」と式辞。卒業生代表の村田陵亮君は答辞で恩師や在校生、保護者に感謝の気持ちを伝え、「仲間と過ごした3年間の日々や思い出を決して忘れず、生涯の仲間として絆を絶やさない」と力強く級友との再会を誓いました。最後に全校生徒が思い出を重ね合いながら、童謡「ふるさと」を合唱しました。

個人番号カード交付臨時窓口について

個人番号（マイナンバー）カード交付臨時窓口を開設します。

当日は、個人番号カード交付のほか、個人番号カード申請（申請書、本人確認書類持参）および通知カード返戻分の受け取り（本人確認書類持参）も行います。

●個人番号カード交付臨時窓口

| | |
|-----------|--|
| 開設期間 | 4月23日(土)、24日(日) 8時30分～16時30分 |
| 開設場所 | 市民課窓口 ※稲垣出張所、車力出張所では臨時窓口を開設しません。 |
| 交付対象地区 | 市内全域 ※稲垣・車力地区も含みます。 |
| 交付対象者 | 本人に限ります ※本人が病気、身体の障害その他やむをえない理由により、お越しになることができない場合に限り、代理人にカードの受け取りを委任できます。詳しくは市民課までお問い合わせください。また、15歳未満の方または成年被後見人のお受け取りは、法定代理人とともに本人もお越しください。 |
| 持参書類 | ○交付通知書（はがき） ○通知カード（交付の際は返納となります。） ○住民基本台帳カード ※お持ちの方のみ ○本人確認書類（下記A、Bのいずれかの書類をご提示ください） （15歳未満の者または成年被後見人に同行する法定代理人も同様に必要） |
| A (1点) | 住民基本台帳カード、運転免許証、運転経歴証明書（H24.4.1以降交付のもの）、旅券、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、在留カード等 |
| B (2点) | 国民健康保険被保険者証、後期高齢者医療被保険者証、健康保険被保険者証、介護保険被保険者証、医療受給者証、各種年金証書、生活保護受給者証、児童扶養手当証書、本人名義の預金通帳、民間企業の社員証、学生証等 |

【問い合わせ先】市民課 電話42-2111（内線262・265・266）

「つがる市姉妹都市国際交流事業」参加者募集

アメリカホームステイ体験参加者募集（国外事業）

国際交流を通じて異国の文化や習慣を体験してみませんか。国際語である英語の習得や広い視野を持った国際感覚を身に付けることは、その後の人生に大きな影響を与えるほど貴重な体験となるでしょう。

- 行先：アメリカ合衆国メイン州バス市、ニューヨーク等
- 期間：平成28年7月23日(土)～8月2日(火)
- 人数：12人以内 ※人数が多い場合は、選考および抽選によって参加者を決定します。
- 対象：中学1年生以上のつがる市民
- 費用：自己負担10万円 ※この他パスポート取得費用や海外傷害保険料等は別途ご負担いただきます。
- 内容：ニューヨーク市内見学、メイン州知事・バス市長表敬訪問、日本文化交流、アウトドア体験、博物館見学、ショッピング体験等。 ※バス市での滞在は原則としてホームステイとなります。
- 申込締切：平成28年4月20日(水)

ホームステイ受入れホストファミリー募集（国内事業）

日本にいながら、つがる市の姉妹都市である米国メイン州バス市の方と交流できるホームステイの受入れプログラムです。バス市から来日し、本市に滞在する方々の宿泊先となるホストファミリーを募集します。

- 期間：平成28年8月4日(木)～8月14日(日)
- 人数：バス市からの来日者は20人を予定
- 内容：ホストファミリーには、宿泊場所・朝食・夕食の提供や集合場所までの送迎等をお願いします。
※ホストファミリーにはつがる市姉妹都市協会から食事代等の補助として5万円支給されます。
(ただし協会への入会が必要)。バス市訪問団の皆さんは、平日の日中は市内見学などします。
- 申込締切：平成28年5月27日(金)



【申し込み・問い合わせ先】企画調整課 電話42-2111（内線351）